

三翠化学会関西支部 第三回総会開催さる



(題字は福川先生)

第53号
平成14年7月30日発行
三翠化学会
津市上浜町1515
三重大学農芸化学コース内
電話/津(059)232-1211
振替/名古屋9-5934
印刷/株式会社ある
TEL(052)332-0861 大8長谷川正一



昭和五十九年二月に設立
総会、同年十一月に第二回
総会を開催して以来音無し
に入っており、まづ三回
まづ三回、二、三世紀を迎え
え久方し、ぶりに第三回総会
を平成十三年十一月十日
(土)十二時からホテルクラ
ントイン新大阪で、来賓の
小畑仁生物資源学部長(大
学第十五回卒業生)のご出席
のもと、三十九名の支部会
員出席で開催した。
総会は副支部長石井清(専
二)の開会の辞で始まり、
支部長(松村昌美、専二)挨拶
→来賓挨拶→議長選出(支
部長)→議事①経過報告(支
部長)→議事②会計報告(細見光
夫、大四)③会計監査報告
(中川清、専二)④役員改選
(正副支部長は選出、幹事は
支部長委嘱(別紙I参照)→
新支部長(嶋林幸英、専一)
挨拶(別紙II参照)→記念
講演(学部長による『生物
資源学部の現状と将来展
望』)→懇親会(小畑弘
(大ニ)の閉会の辞でお開
きになった。
来賓の学部長を含め四十
名の同窓会ではあったが極
めて密度の高い三時間余の
会合であった。次回の総会
(平成十四年十一月十日前後
(土)または(日)に開
催予定を楽しみに三々五々
帰路についた。
◎記念講演は主に現在の生
物資源学部の三科学構成、卒
業生の所属同窓会の問題、目
前に迫っている大学の法人
化に関する諸問題について
であった。
◎総会の出席者は三十九名
(内、専一3、専二13、大
1、大2、大3、大4、大5、
大6、大7、大8、大9、大10、
大11、大12、大13、大14、
大15、大16、大17、大18、
大19、大20、大21、大22、
大23、大24、大25、大26、
大27、大28、大29、大30、
大31、大32、大33、大34、
大35、大36、大37、大38、
大39、大40、大41、大42、
大43、大44、大45、大46、
大47、大48、大49、大50、
大51、大52、大53、大54、
大55、大56、大57、大58、
大59、大60、大61、大62、
大63、大64、大65、大66、
大67、大68、大69、大70、
大71、大72、大73、大74、
大75、大76、大77、大78、
大79、大80、大81、大82、
大83、大84、大85、大86、
大87、大88、大89、大90、
大91、大92、大93、大94、
大95、大96、大97、大98、
大99、大100)

平成十四年度の総会は、昨
年度通りホテルクラントイ
ン新大阪(JR新大阪駅か
ら至便)で、十一月十日
後の(土)または(日)に
開催予定です。日時が決定
次第、会員各位に連絡致し
ます。お誘い合せのうえ是
非ご出席ください。
◇参考のため、支部規約を
掲載致します。

三翠化学会関西支部役員					
役職	卒業回数	氏名	〒	自宅	☎
支部長	専一・大2	嶋林 幸英	520-3017	滋賀県栗東市六地藏813	077-552-0043
副支部長	大9	木下 崎次	565-0824	吹田市山田西1-31-410	06-6876-1316
幹事(会計)	大28	関小田 弘	569-1032	高槻市宮之川原4-3-11	0726-88-4570
"(監査)	大4	細見 光夫	550-0014	大阪市西区北堀江4-6-9-403	06-6535-0388
"	専2	岸本 久男	562-0001	箕面市箕面2-8-18	0727-22-4140
"	専1	佐野 恒平	583-0024	藤井寺市藤井寺1-8-30	0729-53-5047
"	専2	吉田 誠之	658-0022	神戸市東灘区深江南町1-1-58-537	078-412-4102
"	専3	中村 宣博	614-8084	八幡市八幡今田22	075-971-1560
"	大2	竹村 憲次	543-0011	大阪市天王寺区清水谷町1-11	06-6761-4931
"	大7	米山 恵美	634-0051	橿原市白樺町1-31-13	07442-7-8338
"	大10	杉山 敏	669-1112	西宮市宝生ヶ丘2-10-1	090-1027-4809
"	大12	小林 紘一	657-0811	神戸市灘区長峰台22-1-1-408	078-882-2316
"	大15	内田 勝啓	600-8066	京都市下京区柳馬場通五条上ル柏屋町336	075-351-2993
"	大19	古橋 雅巳	565-0082	豊中市新千里東町2-7-C27-602	06-6832-4942
"	大24	山本 俊吾	671-0253	姫路市花田町一本松376-8	0792-53-0932
"	大29	岩田 将司	636-0303	奈良県磯城郡田原本町保津128	07443-3-0626
"	大39	田宮 敏呂	543-0012	大阪市天王寺区空堀町13-22 シーズ天王寺真田山405	06-6767-5234
"	大40	菊地 寛	636-0811	奈良県生駒郡三郷町勢野町東3-11-55-404	0745-73-0228
"	大43	澤本真奈美	586-0067	河内長野市南青葉台9-4	0721-65-1371

ご挨拶

三翠化学会関西支部長 嶋林 幸英

11月10日開催の第3回三翠化学会関西支部総会で因らざるも第二回目の支部長に選出されました。生来の浅学菲才に加えて高齢の身ではありますが、母校、三翠化学会及び会員各位の発展、相互の交流・親睦向上に打ち込む所存であります。

ご存知の様に、三翠化学会は母校の発展と会員相互の情報交換・親睦向上を目的として、約30年前の昭和48年11月24日に会員数約700名で発足したのであります。以来、関東支部、東海支部、関西支部、三重県支部が相次いで設立され、現在では会員数約1600名を擁する堂々の同窓会に成長しましたことはご同慶の至りであります。しかも、①若さ、②行動力、③まとまりの点では、先輩格の三翠農学会、志登茂会及び三重林学会に決して引けを取らない同窓会であると自負しています。

三翠化学会関西支部は、三重大学農学部農芸化学科並びに農芸化学コース卒業生の内、主に関西地区に在任並びに勤務先を有する者の交流と三翠化学会の発展と結束強化を目的に、昭和59年2月4日に設立されたのであります。当時の会員数は約200名、設立総会の出席者数は約70名でありました。続いて、同年11月に第2回の総会を開催した後、どうしたわけか、充電期に入ってしまった。しかし、21世紀を迎え、会員数も約250名に達したのを転機に、同窓会活動の再活性化を求める機運が会員有志から醸成し、これが今回の総会開催に結びついたものであります。(別紙資料にありますように出席者は約40名ではありましたが密度の高い総会で、出席者相互の交流・親睦向上の実は120%以上あがりました。)

こういった極めて重要な局面で支部長を仰せつかり、ある種の戸惑いと責任の重大さを痛感している次第であります。年齢が年齢だけに、一期2年間にしほり、支部発展に全力投球する所存であります。具体策につきましては役員会で十分検討して参りますが、基本的には年一回の総会は必ず開催すべきであると考えています。“継続は力なり”であります。一人でも多くの支部会員が一堂に会し、縦横の絆を強め、交流と親睦を深め、その連帯の輪を更に拡げていくことこそが支部発展の driving force となるのであります。そして、これらの Step by step による積み重ねが名実共に充実した支部同窓会の構築と維持につながるべく信じています。

この実現には、会員各位の自覚とご協力・ご理解・ご指導・ご鞭撻が不可欠であります。よろしくごお願い申し上げます。

次回の総会は今年の11月中旬頃開催予定と目下のところ考えています。勿論、役員会で決定後改めて連絡致しますが、そのときは卒業回数、職場、地域を問わず先輩、後輩お誘いあわせのうえ多数の会員諸氏の参加を期待しています。

- ### 三翠化学会関西支部規約
- 第1条 本会は、三翠化学会関西支部と称する。
 - 第2条 本会の事務所は、原則として関西地区におく。
 - 第3条 本会の会員は、関西地区内に居住または勤務する者および当支部設立の趣旨に賛同する三翠化学会員であるものとする。
 - 第4条 本会は、会員相互の親睦を深めるとともに、三翠化学会の発展と結束強化に資することを目的とする。
 - 第5条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 - 1) 会員相互の連携と情報交換に資するための事業
 - 2) その他必要な事業
 - 第6条 本会に、次の役員をおく。
 - 1) 支部長1名、副支部長2名および幹事若干名
 - 2) 支部長、副支部長は総会において選出し、幹事は支部長が委嘱する。
 - 3) 支部長は会務を総括する。副支部長は支部長を補佐する。幹事は、会務を処理する。
 - 4) 役員任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補充役員は前任者の残任期間とする。
 - 第7条 本会に、次の会議をおく。
 - 1) 総会および役員会
 - 2) 会議は、必要に応じて開催し、支部長が招集する。
 - 3) 会議の議長は出席会員の互選により、議事は出席者の過半数で決する。
 - 4) 総会は、規約に関する事項、その他必要な事項を審議する。
 - 第8条
 - 1) 本会の経費は、会費およびその他の収入をもって充てる。
 - 2) 会費は、必要に応じて徴収することができる。
- 附 則
- 1) すでに組織された三翠会関係のそれぞれの組織については、相互補完の関係維持に努める。
 - 2) この規約は、昭和59年2月4日から施行する。

小畑 仁先生 生物資源学部長就任!!

平成一三年一月から大
学一五年回
業の小畑
先生の引
継ぎ学部長
就任されま
した。一五年
の一月に生
物資源学部長
就任されました
関係で本学
では一〇月
任となつて
ます。三翠
学同窓会と
しましては高
橋先生に引き
継いで二目
二人目であ
誠に喜ば
かぎりあり
ます。しか
小畑先生は「
議」と「勉
「思案」等
変遷し毎日
を送つてお
れ、六月に
一六四年に
ら国立大法
人に移行す
準備作業に
え、平成一
年四月に行
ました新学
の年次進行
平成一五年
月に終わる
を受け、こ
もまた同
成一六年四
からの大学
改組の作業
取り組んで
られます。
(文責 久松 眞)

賢島に集う (大一回)

五年ぶりの大一クラス会を秋も深まった平成十三年十一月七日志摩路で開いた。参加者は写真の前列向かって左から吉田、服部、福田、杉岡、林、桃井、後列同じく西川、西山、原田、

の白い・濃い・薄い・まぶしいの、それぞれ頭髪に差はあれ見違ふほどの者は誰もなく還暦から古稀に至る間には外見上特に目立つた変化は無かつたように見えたが、いざ話が弾みだすとやれ胸を切った、腹を切った、尻を切った、腰を切った、膝がどうした、歯は入れ替えた、それぞれかなり健康問題では苦労をした模様で質疑応答が飛び交った。俄か医者になったり患者になったり一大総合病院開院の有様だったが、喋る口と飲む口食べる口は達者なもので夫々が持ち込んだ各種ドリンクとつまみでひと時を過ごし、宴会では伊勢・志摩の特撰素材の料理を楽しみなながら、開会前に撮ってもらった西山君のカメラのすざから端を発して数々の入選を果たした写真展、県展で賞をもらった奥山君の絵画展、稀少種も数々育てている水谷君の蘭の苦労話、江南短大を退任後サ

ンデー毎日と称する前田君のウォーキング中のバードウォッチング談(季節と渡り鳥の飛来状況 等々かなり年季の入ったものから日は浅いが熱心さがうかがえる話が次々と出て、食事が終わっても幹事部屋で何時までもクラス会ならではのお互い遠慮のない談笑は続いたのであった。

翌八日はどうしても都合の悪い人たちと別れて十名が大いに若返り志摩スペイン村へ村内散策、さすがに肝を冷やすような乗り物に乗ろうと言ふものは居なかつたが、聖フランシスコ・ザビエル(ハビエル)が生まれ育ったハビエル城に模した城内に、スペインの歴史が復元物や工芸品で紹介されているハビエル城博物館をつぶさに見てちよつと各ショップで有料・無料を問わずズシエリーを片っ端から試飲してワイン通になったり、最後は揃ってカルメンホールで軽食を摂りながら本場ダンスによるフラメンコショーを観てのちエスパーニャカーニバルのパレードに見送られて最寄駅より夫々の家路についた。

◆総会
この日の出席者は、次の十八名だった。
市橋・大井・大道・岡本・黒部・近藤・榎原・十川・竹内・積本・中川紀・中川清・中北・中西・藤井・藤枝・前田・吉田

幹事より砂野・平尾君らの計報を聞き、四十四名の同級生のうち、すでに十名も欠けたことを知って、お互いの年の程を再認識し、一同黙とうを捧げた。

宴会に入つて、昔を語り、今を語つて飲を尽くし、想い出に残る宵となりました。

◆翌日は「古川祭」で知られた飛騨古川に移動し、日本一を誇る「おこし太鼓」を見たり鼓いたり、「飛騨高山」に劣らぬ大屋台など、飛騨匠の作といわれる伝統工芸にふれた。

さらに、大井君の紹介で「蒲酒造」を見学、新酒の仕込まれたタンク群に触れたり、利き酒を楽しんだり、その昔「醸造」となると学んだ想い出に浸ることができました。

飛騨地方は、高地として秋色は一層冴え、町中にカエデ、イチヨウなどが紅色に染つて旅情をかき立ててくれました。

昼食は気楽に語り、飲みつつ名物の蕎麦をすすり、「来年は三重」を約束して解散しました。(文・近藤)

新聞 奥田、樋口、福田、前田、水谷、清水の十六人。この中には平成に入つて初めての前田、新聞の両君をはじめ徳島以来十一年ぶりの杉岡君(四カ月後に他界したので彼には最後の会になつてしまった)、湯ノ山から七年ぶりの西川、西山、林、桃井の四君、あとが五年前のスズカサーキット以来と言ふ顔ぶれ。黒い



新開 奥田、樋口、福田、前田、水谷、清水の十六人。この中には平成に入つて初めての前田、新聞の両君をはじめ徳島以来十一年ぶりの杉岡君(四カ月後に他界したので彼には最後の会になつてしまった)、湯ノ山から七年ぶりの西川、西山、林、桃井の四君、あとが五年前のスズカサーキット以来と言ふ顔ぶれ。黒い

クラス会のお知らせ

奥飛騨で仙人会 (専二回)

二十一世紀を記念する仙入会総会を、平成十三年十月二十四・二十五日、秋色せまる下呂温泉の水明館で開催した。

日本三名泉といわれるこの水明館は、仙人会の企画にご協力頂き、総会に先立って館内画廊見学の機会を作つて頂いた。画廊では数千点の作品の中から秋にかかる作品を選んで解説して頂いた。また、陶磁器、書、和紙工芸品などを紹介して頂いたほか、ご自慢のコンベンションホール(五百畳敷)や能舞台を案内して頂いた。

この日の出席者は、次の十八名だった。
市橋・大井・大道・岡本・黒部・近藤・榎原・十川・竹内・積本・中川紀・中川清・中北・中西・藤井・藤枝・前田・吉田

◆翌日は「古川祭」で知られた飛騨古川に移動し、日本一を誇る「おこし太鼓」を見たり鼓いたり、「飛騨高山」に劣らぬ大屋台など、飛騨匠の作といわれる伝統工芸にふれた。

さらに、大井君の紹介で「蒲酒造」を見学、新酒の仕込まれたタンク群に触れたり、利き酒を楽しんだり、その昔「醸造」となると学んだ想い出に浸ることができました。

飛騨地方は、高地として秋色は一層冴え、町中にカエデ、イチヨウなどが紅色に染つて旅情をかき立ててくれました。

昼食は気楽に語り、飲みつつ名物の蕎麦をすすり、「来年は三重」を約束して解散しました。(文・近藤)



十回生 二年ぶりの再会

湯の山温泉

私たちが昭和三十三年卒の十回生(二十八名、内二名は物不届きで退会)の比野君、退職後に娘さんの喫茶店を手伝つて居る「愛嬢バー」村瀬君(席上、娘さんの手造りのシュークリームの差し入れがあり、一同大感激)、三重県菰野町の山絵野温泉希望荘で開催した。

あいにくの曇のち雨の天候であつたが、クラスの半数十五人が出席のんびり温泉に入つたあと宴会、大いに盛り上がり、夜中まで談笑。翌朝、次回の再会を楽しみに散会した。

写真の面々は、前列右から佐藤、勝田(勝方)、渋谷、田井中、松尾、藤田、古川、後列右から花山、澤田、藪本、宮本、細見、村上、梅田、豊井(奥田)の各君である。

大15回卒 クラス会報告



先回のクラス会(平成十三年十月、湯の山)から三年がすぎ、台湾でのミニクラス会計画が流れ、一度近くでクラス会をやろうという気運が盛り上がりつつあるを受けて、平成十四年二月十七日(日)に名古屋駅前ビル・JRセントラルビル内タワーズプラザ十三階の美々卯(ミミウ)に十一名が参加してクラス会が開かれた。この日は、担任をして頂いた松嶋欽一先生が、昨年の叙勲で勲三等旭日中綬章をご受賞された御祝いの会の翌日であり、その会に出席した級友から、松嶋先生の近況や会の様子が紹介され、また松嶋先生ご自身が栽培された柿の原種の実が、これをたべると何年か長生きできるとの説明とともに出されて、皆ありがたく頂いた。またクラスから松嶋先生にお出ししたお祝いの手紙に対する先生からの返事の手紙が披露され、一同で先生のご受賞をおよこびした。また級友の一人が母校の学部長になつたことをうけて、激励のための記念品(ネクタイピン)が贈られた。

うんすきをつつきながら、思い思いにビールや焼酎を楽しみ、話題はもっぱら遊びのこと(ゴルフ、子供の事、十一人ともまだ孫がいないこと、などなど、とりとめもないことをしゃべりあひ、一時三十九年前に戻つて時間の経つのを忘れた。もうあまり仕事の話が出なくなつたのは、昨今の不況のせいばかりではない感じをもつた。夜がふけ明日仕事があることを思い出して八時ころお開きとなった。次回は三年後に、高橋(勝)君が昨年植えた枝垂桜の下で、四月の第三土曜日に開くことに決定し、その日の再会を約して帰途についた。

(小畑記)

大4クラス会 湯の山に集う

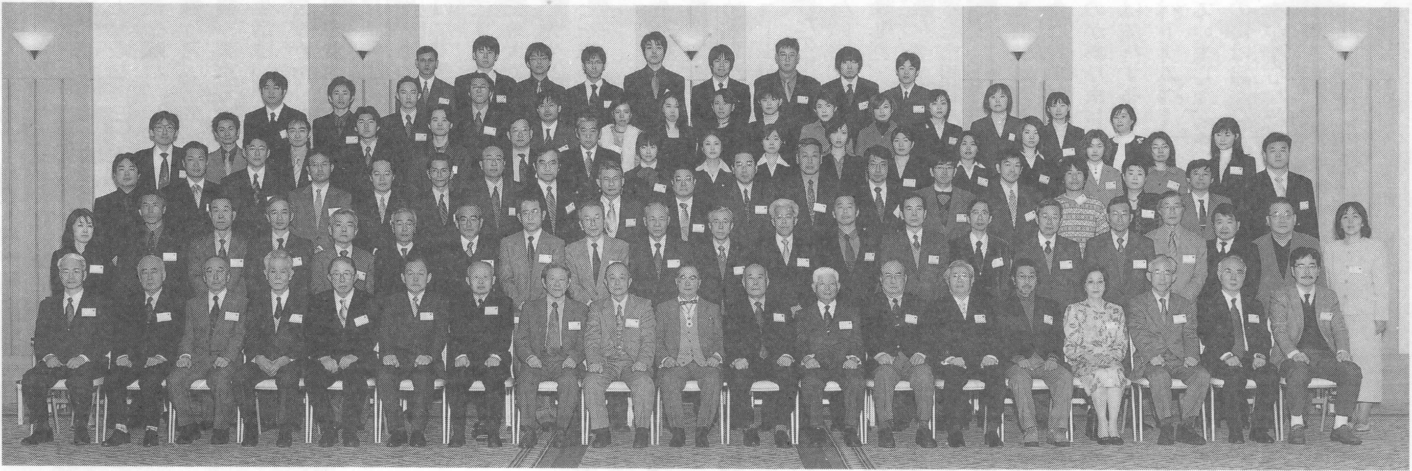


農化大四回生クラス会を、平成十三年九月三十日(日曜日)、三重県菰野町の山絵野温泉希望荘で開催した。

あいにくの曇のち雨の天候であつたが、クラスの半数十五人が出席のんびり温泉に入つたあと宴会、大いに盛り上がり、夜中まで談笑。翌朝、次回の再会を楽しみに散会した。

写真の面々は、前列右から佐藤、勝田(勝方)、渋谷、田井中、松尾、藤田、古川、後列右から花山、澤田、藪本、宮本、細見、村上、梅田、豊井(奥田)の各君である。

松嶋欽一先生 勲三等旭日中綬章受賞祝賀会報告



先輩の方々をはじめとし、現役学生まで、総勢一〇二名が集いました。嶋田協先生(専三)による開会の辞に続き、松嶋先生には思い出と近況をお話し戴きましたが、今でも英会話の勉強を駅前留学の形で続けられているとのこと。頭の下がる思いでした。またお身体の方も大変お元気で、お家では、梯子に登って果樹の手入れもされているとのこと。先生の前作られた干柿をおみやげに持ってきて戴きました。嶋林幸英先生(専一)、佐藤美津子さん(大四)、松永国義さん(大五)、鈴木智さん(大三)には、各年代を代表して当時の思い出をお話し戴きました。乾杯の後、昔話に大いに花を咲かせました。第一線の企業人も多いため、情報交換をする姿も見かけられました。あつという間の三時間でしたが、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。参加下さった皆様にお礼を申し上げるとともに、今回御参加戴けなかった方々には次の機会に

松嶋欽一先生が、平成十三年度秋の叙勲に際し、勲三等旭日中綬章を受賞されました。これをお祝いするため、平成十四年二月十六日(土)、津駅前ホテルグリーンパーク津において、醗酵学・応用微生物学・微生物工学(研究室の名前がこのように変更しています)の同窓会



お目に掛かるのを楽しみにしております。(栗冠和郎)

生理活性化学研究室の柏村直樹教授が平成一四年三月末にめでたく定年退職されることになり、三月十六日(土)に生物資源学部大講義室で最終講義が一時から二時まで行われました。京都大学の関係者、三重大学教員、研究室同窓生、在学生などを含め約一五〇人が参加されました。先生の講義は京都大学での恩師との出会いから始まり、京都で手がけられた糖鎖の合成、三重大学に赴任されてからの糖質の活性酸素、制がん性脂溶性糖質、フラーゼの宿主認識の研究の他に、先生が精力的に取り組まれた産学連携活動に至るまで、広範囲の内容を簡潔にまとめられて話されました。討論が何よりも好きな先生にとつては、質問の時間が少なく、物足りなさを感じられたかも知れませんが、祝賀会で参加者と心置きなく話していただくことにしました。卒業生の島岡朋子さんと在校生の武田早織さんから柏村先生に花束を贈呈し、先生の今後の御健康を願って参加者全員で拍手とともにお送りしました。その後、会場をホテルグリーンパーク津に移し、二時三十分から柏村先生御夫妻を囲んで定年

柏村教授の定年退官



お祝いの会を開きました。小畑生物資源学部長の来賓の祝辞に続いて、前任者の熊澤善三郎名誉教授、研究室同窓生からの心暖まる言葉が続きました。この時はやはり御夫妻とも寛いでいたのだと様子でした。記念品贈呈では、北川優氏の笑顔を誘うスピーチの後、デジタルビデオディスプレイを先生に贈りました。予定の二時間半があつたという間に過ぎ、伊藤誠二氏の力強い一本締めで締めくくり、宴を閉じました。満たされた方々には二次会、三次会でもさらに懇親を深めていただきました。

先生は現在、三重大学の共通教育の科目を担当し、若い学生とのコミュニケーションを楽しんでおられます。残念なことに、先生は九月には住み慣れた津を去り、京都に移られると聞いています。今後も奥様ともども健康でお過ごし下さい。(文責 西川)

今年度から三翠同窓会総会に合わせて各支部とも九月二日(土)に総会を開きます。一三時から受付、一三時二〇分からは三翠化学会三翠支部総会を行います。懇親会(一六時から、会費三、〇〇〇円)にも参加ください。なお、参加される方は九月二日(火)までにご連絡下さい。連絡先:西川司朗(電話〇五九二三二一九六三〇)あるいは久松眞(電話〇五九二三二一九六一四)

「世界最小のバラ」と聞いてどんなサイズを想像しますか? 私は現在、三重ローズガーデンで切り花栽培、バラ苗の栽培及び品種改良に従事しています。当園が九五年に世に送り出したのが、世界最小のバラ「ピンクジュエルス」です。通常ミニバラと呼ばれるものは、花の直径は三、四cm以上です。ところが改良を重ねたどりついたのは八mm:小指先ほどの大きさのバラなんです。改良にあたって目指したのは、良にあって目指したのは、一、小さくても花びらの数が多くてバラらしい花、二、花数が多くつく、三、コンパクトで育てやすい、と言った点です。結果これらを満たしたピンクジュエルスはまさしく、宝石をちりばめた樹の様相です。新聞、TV、雑誌等でも取り上げられたのでご存知の方もみえるのでは? それから七年、この最小のバラの色違い「ホワイトジュエルス」の開発に成功しました。今後もジュエルスシリーズとして様々な色にチャレンジしてゆきたいと思っております。現在一株三、〇〇〇円にて販売しています。(高い? いやいや宝石に比べたら安いものです。)奥様や彼女の大切なものでした。

今、私は

櫻本 淳さん (大三回)

ピンクジュエルス

世界最小のバラ誕生

「世界最小のバラ」と聞いてどんなサイズを想像しますか? 私は現在、三重ローズガーデンで切り花栽培、バラ苗の栽培及び品種改良に従事しています。当園が九五年に世に送り出したのが、世界最小のバラ「ピンクジュエルス」です。通常ミニバラと呼ばれるものは、花の直径は三、四cm以上です。ところが改良を重ねたどりついたのは八mm:小指先ほどの大きさのバラなんです。改良にあたって目指したのは、良にあって目指したのは、一、小さくても花びらの数が多くてバラらしい花、二、花数が多くつく、三、コンパクトで育てやすい、と言った点です。結果これらを満たしたピンクジュエルスはまさしく、宝石をちりばめた樹の様相です。新聞、TV、雑誌等でも取り上げられたのでご存知の方もみえるのでは? それから七年、この最小のバラの色違い「ホワイトジュエルス」の開発に成功しました。今後もジュエルスシリーズとして様々な色にチャレンジしてゆきたいと思っております。現在一株三、〇〇〇円にて販売しています。(高い? いやいや宝石に比べたら安いものです。)奥様や彼女の大切なものでした。

三翠化学会総会および三翠化学会三翠支部総会のお知らせ

今年度から三翠同窓会総会に合わせて各支部とも九月二日(土)に総会を開きます。一三時から受付、一三時二〇分からは三翠化学会三翠支部総会を行います。懇親会(一六時から、会費三、〇〇〇円)にも参加ください。なお、参加される方は九月二日(火)までにご連絡下さい。連絡先:西川司朗(電話〇五九二三二一九六三〇)あるいは久松眞(電話〇五九二三二一九六一四)

平成年六月九日、東海支部でお世話いただき、「大須演芸場」を貸し切つて、専門一回から大学四回までの同窓会十三名が集まり総会及び親睦会を開催いたしました。福田会長が舞台上がられ、ご挨拶をされました。

総会では十二年度事業報告、決算報告、基金決済報告が了承されました。ところで、平成十二年度の大学改組にも関係のない新学科の学生が入学し、現在は三年生となっております。その結果、平成十五年三月には最後の農芸化学コースの卒業生を送ることにあります。これを受け本同窓会の運営も少しづつ変更していくことが適切かと思ひ、平

チェンマイ便り

梅林正直先生

麻薬生産のケシ栽培で悪名高かった黄金の三角地帯のタイ北部山岳に、梅やマナオ(タイのライム)の苗を寄贈して植樹する「独りぼっち」の木の根運動を退官後に始めてから、もう六年目になりました。

当初平成七年六月にチェンマイ県パンコーン村に高さ五〇センチの梅の苗木三〇〇本を寄贈したものが、一年半で三、四米に生育したのがきっかけで、熱帯の高地に適し、悪路でアクセスが困難でも保存加工の出来る梅の栽培を普及しようと考へたのです。

最初に梅を植えたパンコーン村では、三年半後に実がなり始め、今春はトンの収穫でした。現在は青梅で売れますが、梅干や梅酒などに加工して「一村一品運動」の村おこし活動に発展させようと計画中です。

自分のお金と頭と身体を使って現地に赴き汗をかい働いたことがボランティアの

この六年間、乾期は一月末から三か月間現地を回り希望を調べ苗を予約して帰国。雨期は六月末から三か月間に、購入した苗を各村に運び寄贈・植樹することを毎年続けてきました。

昨年までに北部タイ六県の延べ一八の村々に、標高一、五〇〇米の高地には梅を七、七〇〇本、一、〇〇〇米位の山にはマナオを三、三〇〇本、総計一、〇〇〇本を植えてきました。

最初梅を植えたパンコーン村では、三年半後に実がなり始め、今春はトンの収穫でした。現在は青梅で売れますが、梅干や梅酒などに加工して「一村一品運動」の村おこし活動に発展させようと計画中です。

自分のお金と頭と身体を使って現地に赴き汗をかい働いたことがボランティアの

平成年六月九日、東海支部でお世話いただき、「大須演芸場」を貸し切つて、専門一回から大学四回までの同窓会十三名が集まり総会及び親睦会を開催いたしました。福田会長が舞台上がられ、ご挨拶をされました。

総会では十二年度事業報告、決算報告、基金決済報告が了承されました。ところで、平成十二年度の大学改組にも関係のない新学科の学生が入学し、現在は三年生となっております。その結果、平成十五年三月には最後の農芸化学コースの卒業生を送ることにあります。これを受け本同窓会の運営も少しづつ変更していくことが適切かと思ひ、平

妹尾啓史先生 東京大学へ転出

—卒業生からのメッセージ—

妹尾先生へ
お元気ですか？
日本の牛肉
個人消費量No.1
かと思われ
る程お肉が大
好きで、肉マ
ニアの先生
が、命の次に
大事で焼き肉
の必須アイテ
ムである炭と
七輪を捨て、早
重を離れ、早
数ヶ月。その
後、東京での
生活はいかが
ですか？牛
肉を食べる度
に（特に松坂
牛。めったに
口にできない
ですけど）、
三重大での妹
尾先生とのこ
とを思い出し
ました。



「焼肉には炭と七輪!!」を
合言葉に、先生のごは
いつまでも忘れません。ま
た三重大に遊びに来て下さ
い。お元気で。
代表 細野篤子（元土壌
学・植物栄養学・分子情報
生物学研究所所属）
追伸
東京に行ったときは美味
しいレストランを案内して
下さい。

原稿投稿の呼び掛け

クラス会等の原稿を募集
しています。また、本紙面
を利用してクラス会の呼び掛
けでも結構です。
本同窓会が発展す
ることなら何でも
結構です。ので
つて記事を投稿
下さい。写真、写
真の簡単な説明、
連絡方法を簡潔
にご記入下さる
だけで十分です。
記事は親会の新聞
で、本新聞はかわ
ら版に役割を分担
していくのはどう
でしょうか。記事
の送り先は、
〒五一四一八五〇七 津市
上浜町三重大学生物資源学
部 西川司朗か久松眞まで。

岡本正雄 両君の他界を悼む



三年前の一月に岡本正雄
君を送った。平成五年六月
の高岡（旧姓田中）正美君
以来のことで遠く離れて久
しく会わなかった正美君と
違つて、毎回のクラス会や
毎年の三翠化学会総会に顔
を出してくれていただけに、
ショックは大きかった。平
成六年に病に倒れたが治療
の甲斐あつて翌七年の静岡
でのクラス会には元氣な姿
を見せてくれた共にパター
ゴルフを愉しんだし、翌十月
鈴鹿サーキットでの会も久
しぶりのボーリングに興じた
り夜はカラオケルームで病後
初の歌を聞かしてくれたの
だった。平成九年五月末の
化学会の総会で会つて以来
こちらが忙しさにかまけて
ご無沙汰をしている間に再
び闘病生活を送るようにな
り遂にクラスの仲間と元氣
な顔を見せることなく帰らぬ
人となつてしまった。

渋谷



大学四回 渋谷 明君に
は、平成十三年の暮れせま
ら十二月二十六日、身罷ら
れた。享年六十七歳。あま
りにも急ぎすぎた幽冥への
旅立ちである。
平成七年初春の三翠化学
会役員会が始まる前のひ
と時であった。いつもの元
氣な渋谷君がなげなく、頰
筋のハレが気になる。とつ
ぶやいた。これが始まりで
あった。その秋に手術、翌
年春には生還を祝つて伊賀
上野でクラス会を持ったの
であつたが……。

明君逝く

クラスの者達は彼の健康
を気遣つて、ブラジル産プロ
ポリスやアガリクスを摂ら
せ、全快を願つたが、叶わ
ず、誠に残念である。昨年秋
の湯の山でのクラス会が最
後の別れとなつてしまった。
渋谷君は、昭和三十一年春
卒業と同時に協同乳業株式
入社、牛乳アイスクリーム
の生産技術に実績をつみ、関
連会社に移つてからも、アイ
スクリームの製造一筋にそ
の技術を磨き、機械設備に造
詣を深めた。その後、郷里に
帰り、明和技術研を興して会
社業績を高めた。
その間、三翠化学会の役員
として会の運営に尽力され、
東海支部の設立、支部活動
その後の三重県支部分離設
立、その支部活動に尽力され

彼は三重県一志郡天白村
（現三雲町）出身で学生時代
は自宅からの通学だった。部
活はバレーボール。がつつ
りした体で九人制のレシー
ヴ専門で敵のアタックを果
敢に泥だらけになつて（当
時は屋外のコートだった）
拾つていた姿を思い出す。人
の相談によく応じ親身に
なつて助けてやる男氣一杯
の性格でクラス委員を卒業
までやつてもらつた。
社会人として最初に勤め
た醤油メーカーから名糖産
業株式に転じ製糖会社から生
まれた製菓会社の創業期か
ら製造部門で活躍し、殊に
同社のチョコレート製造の
中心的存在だったと、お通
夜の席で沢山の同僚のかた
がたの話で往時が伺えた。
持ち前の頑張りや逆になつて
康に災いし高血圧症よりの
脳血管や循環器の障害で昭

和の末期には長期の療養生
活に入り再起不能かとも言
われたが本人の不屈の精神
と奥さんの献身的な努力で
幾分の不自由さはあつても
驚異的な回復を見せ、平成
二年秋徳島でのクラス会に
は奥さん同伴で出席し普通
の語り口で闘病生活の終
始を披露しみんなを感動さ
せたのでした。そして昨年
賢島での会に顔を見せたが
十一年前と殆ど変わつてな
くこの調子なら我々以上に
頑張れるのではないかと
思ったのだが、僅か四ヶ月
で不帰の客となるのは、夢
想だに思ひなかつただけに人
の世の無常を感じ口惜しく
哀しい限りである。
岡本、杉岡、両君の友情
に感謝し二人のご冥福を心
よりお祈りします。
（福田 映）

平成12年度卒業・修了生の進路

平成13年度学部卒業生の就職・進学先

- 秋田 総理 生物資源学研究科
- 石川真理子 竹本油脂(株)
- 井上 桃子 日本新薬(株)
- 今川 佑介 奈良先端科学技術大学院大学
- 大内千佳子 丸信製粉(株)
- 小笠 俊郎 生物資源学研究科
- 海津 理絵 (財)日本食品分析センター
- 金森 瞳 未定
- 河田 雅美 宮商事(株)
- 桐山智也子 エスケー化研(株)
- 小杉 優 アストラゼネカ(株)
- 齋藤 辰朗 生物資源学研究科
- 佐藤千代子 生物資源学研究科
- 寛政 理恵 萬有製薬(株)
- 佐野セシル 米国大学院進学
- 杉浦万佑子 弥富町役場
- 杉江 美帆 泉万醸造(株)
- 杉村 和人 生物資源学研究科
- 鈴木 浩之 生物資源学研究科
- 清家 和治 医学研究科
- 園田 豊治 生物資源学研究科
- 武田 早織 生物資源学研究科
- 谷口 喜寿 ソフトウェア情報開発(株)
- 谷口和歌子 林純薬工業(株)
- 西浦 薫 医学研究科
- 二宮真理綾 キューピー(株)
- 馬場 大輔 名古屋大学大学院工学研究科

- 福本 三喜 医学研究科
- 福森 郁哉 神戸大学大学院研究科
- 古林 卓也 生物資源学研究科
- 松岡 純子 生物資源学研究科
- 松田 文子 生物資源学研究科
- 水野 彩 和光純薬(株)
- 三谷 朋弘 生物資源学研究科
- 森嶋 克典 生物資源学研究科
- 山下 妙子 生物資源学研究科
- 吉田 佳代 奈良先端科学技術大学院大学
- 相内 理沙 (財)日本食品分析センター
- 中西 真理 (株)車多酒造
- 市原 紗恵 井村屋製菓(株)

修士課程修了者の就職・進学先 (平成14年3月)

- 飯田 正弘 教員希望
- 井上 英明 大洋薬品工業(株)
- 井上 将亨 ゼリア新薬工業(株)
- 茨木 康伸 大鵬薬品工業(株)
- 岩田 圭子 生物資源学研究科博士課程
- 内山 朋春 (株)日本ハム
- 江口 直樹 (株)盛田
- 小野木 悟 (株)ポッカコーポレーション
- 上総 素子 未定
- 川井 弘隆 住友製薬(株)
- 川瀬真美子 名古屋製酪(株)
- 倉谷 隆敏 日本オフィスシステム(株)
- 小山 貴芳 生物資源学研究科博士課程

- 篠原 亜理 名古屋市職員
- 左右田 茜 バイオ科学(株)
- 徳田 濃子 竹屋(株)
- 水見 桂子 (社会人)三重看護大
- 萩原 大輔 日本シェーリング(株)
- 長谷美由紀 ニチニチ製菓(株)
- 濱口 恭子 菱山製菓(株)
- 細野 篤子 三重大学医学部非常勤職員
- 堀 ともみ 伊藤製油
- 三林 靖幸 サンジシ醸造(株)
- 宮崎 麻衣 (株)クリスタル
- 若嶋 裕人 日本化薬(株)
- 亜拉騰其木格 生物資源学研究科博士課程
- 坂下 弘樹 日本オルガノン(株)

博士課程修了者の就職・進学先 (平成14年3月)

- 籠谷 和弘 辻製油(株)
- 竹林慎一郎 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター
- 多田 貴広 (社会人)御木本製菓(株)
- 西村 有起 九州大学大学院医学研究院
- ウェン ヴェット イン ティ ベトナム国立食品工業研究所 (帰国)
- サンタサップ チュチャート
- チェンマイ大学農学部 (帰国)
- 鈴木 恒一 名古屋大学 (ポスドク)
- 久保さつき 復学